

今年是国内最後の内戦「西南の役」が終結し、西郷隆盛が没して一四〇年の節目の年です。

今回は、西南の役が起きた背景を紹介いたします。

### 武家の始まり

西南の役は、明治十（一八七七）年一月二十九日に起きた私学校生徒による草牟田の陸軍火薬庫襲撃が発端とされています。翌月の二月十五日、鹿児島では珍しい大雪の中、熊本に向けて薩摩軍の進軍が始まりました。

西南の役は一言で「武家（封建）社会の終焉」であったと言えます。

では、武家はどのようにして生まれたのでしょうか。

平安時代までは朝廷が政治の中心でしたが、武士のような存在もありました。初めは朝廷を支える豪族やその配下の一族が警護を担当。異民族（蝦夷）と戦って朝廷の勢力を広げるための最高指揮官が「征夷大將軍」であり、位の高い貴族が担当していました。その後、異民族の反乱が治まり日本国

中に朝廷の権威が広まると、征夷大將軍は形式だけの職位になりました。

その後は朝廷警護が中心となり、高級貴族のそばで警護する「従う」を表す「さぶらう」に由来して「侍」と呼ばれ、下級貴族が担当するようになりました。

平安中期からは朝廷の政治力や軍事力が低下。地方の「荘園を管理・支配して力を持つようになった下級貴族が政治的にも力を持つようになり、後の武家政権（平清盛↓源頼朝の鎌倉幕府）につながっていきました。

武家社会はその後、江戸時代まで約六八〇年間続き、武士が日本を統治・支配してきました。

### 武家の終焉

明治維新によって、最も変化したのは「士族と呼ばれた人たちでした。それまで、それぞれの領地で政治を行い、治安を守ること」「禄」という給料をもらっていました。しかも世襲であり、歴代の家を「守り・継ぐ」ことが武家の最大の役目となっていました。

それが、明治時代になると政治は政府が行い、治安は軍隊と警察が行うようになりました。しかも平民からも登用できるようになったことから、士族たちの行き場が無くなると同時に収入も無くなりました。

# 西郷隆盛と霧島

その⑥

## 「西南の役」勃発の背景

明治維新期の士族をめぐる主な改革（変化）は次のとおりです。

- 明治二年 ※4 版籍奉還
- 明治四年 廃藩置県
- 明治六年 徴兵制
- 明治七年 警視庁創設
- 明治九年 廢刀令

### 不平士族たちの反乱

明治七（一八七四）年から九（一八七六）年にかけて立て続けに起きた士族たちによる反乱は、明治維新後の改革に対する不満の現れであり、中でも最大の反乱が西南の役でした。

- 明治七年二月 佐賀の乱
- 明治九年十月 神風連の乱（熊本）
- 〃 秋月の乱（福岡）
- 〃 萩の乱（山口）
- 明治十年二月 西南の役

西南の役には、九州を中心とした士族「薩摩隊」も加わっており、その規模は十二隊、約一万一千名を数えました。また、薩摩軍に合わせ共闘しようとした結社は薩摩隊を含め二九を数え、全国に存在していました。

士族たちの反乱は、維新の立役者となった薩摩・長州・肥前などの藩に多く見られ、その不満も大きかったように思えます。彼らは「新しい世の中になる」と理想を掲げ、命懸けで戦いました。その結果が、武士という特権の廃止につながるという、なんとも皮肉な歴史となったのです。

（文責 〓 鈴）

※1 貴族や寺院、神社の私的な領地  
 ※2 鎌倉幕府成立から江戸幕府滅亡まで  
 ※3 版籍奉還後の旧武士階級  
 ※4 大名が天皇に領地・領民を返還すること